



2P) 幅3.6m、長さ30mの縁側テラス。明るく温かいこの場所はみんなのお気に入り。ご飯を食べたり遊んだり、天気に関係なく使えて便利な空間。

上) 園舎全景、L型形状の建物と木レンガのアプローチで園庭を開き、どこからでも子供たちの様子を見ることができる。外壁は木と漆喰、赤い屋根は旧園舎のイメージを引き継いだ。

左) 縁側テラスの南には、大きな窓、天窓、ハイサイド窓がつくられている。それぞれの窓に役割があり、明るく、温かく、快適な空間をつくっている。

組む保育士の熱心さも伝わる内容でした。今回の移転計画は数年前から検討されていましたが、候補地の選定に時間がかかり、設計者に声がかかったのが2年前の11月でした。タイトな時間ではありましたが、何度か敷地を訪れたり旧園舎で過ごす園児たちの様子を見に行ったりしながら私たちの考える木の保育園を提案させていただきました。12月下旬に設計者選定のプレゼンテーションが行われ、翌日採用のお電話をいただきました。

私たちが提案した園舎は、「保育理念Ⅱ園舎づくり」をテーマに、周辺環境が変わっても、旧園舎での思い出や取り組んできた保育を活かせる園舎をつくりたいと考え、リズム体操が出来る広い遊戯室を確保し、保育室などから周辺の山々が見渡せ、また、園舎と園庭が一体となったプランを提案しました。合わせて、地域の木材をふんだんに使い、仕上げにも木を現した保育園とし、優しく暖かく、そして地域の自然を身近に感じられる内部空間としました。図面や設計積算がまとまり建設に向けての入札が行われ、施工者が決定されました。施工者は2年前に藤枝市の「青葉ひよこ保育園」を建設してくれた杉村工務店さんが選ばれ、監督さんをはじめ職人さんも数人が顔見知りでした。前回の経験を活かし、設計者、施工者が一体となった建設が行われ、無事に4月の開園を迎えることが出来ました。

地域の木と人に包まれた園舎

— 保育理念をカタチに —

完成現場報告

島田市『たけのこ保育園』

文・写真／コロラボ 山崎健治

保育理念Ⅱ園舎づくり

今年の春、島田市に新しい木の保育園が誕生しました。元々同地域にあった保育園の園庭が土砂災害の警戒区域に指定された事と、建物の老朽化や耐震性等の問題が重なり、今回の場所への移転として新しく計画されました。いろいろなお悩みはあったものの、旧園舎の周辺には小高い山や木々、囲いなどが広がり、自然と一体となった遊びや体験を軸とした保育が評判の保育園でした。また、跳び箱や縄跳びなどを使ったリズム体操に力を入れ、基礎体力の向上、丈夫な体、自立した心をつくる事を理念とした取り組みを行っていました。リズム体操は広いホールで行われ、発表会には保護者や地域の方、園の卒園児なども集まり、多くの方が楽しみにしているイベントが行われていました。私も一度卒園式の際に行われる発表会に参加し、その様子を見学させていただきましたが、保育園の園児とは思えない程の基礎体力に驚き、一緒に取り



木の保育園は、建築中も見所いっぱい。上棟式で餅まきも行われました。



10月からスタートした保育園の建設工事は、基礎工事から始まり、木工事、屋根工事、外壁工事と、どんどん進んでいきます。毎日10人以上の職人さんが現場に入出入りし、大きな建物が日々姿を変えて出来上がっていきます。屋根の下地が出来た頃、保育園の園児や地域の方を対象にした上棟式が行われました。昔の風習に習って屋根の上から餅まきが行われ、子供たちは元気な声を上げてたくさんのお餅を拾ってくれました。私も子供の頃、近所の餅まきによく参加していました。拾ったお餅

は柔らかく、そのまま食べて美味しかった事を今でも覚えています。

参加された方は、餅まきの前後に建築中の建物を覗いたり、お母さん同士やご近所方と話をしたりと、短い時間でしたが楽しんでいただけたようです。こんな交流イベントが出来るのも木造の建物ならではの楽しみではないでしょうか。木造建築は建築中でも人と人をつなげ、たくさんの和を生んでくれました。



遊戯室の屋根を支える木トラスを架けている。長さ6間(約11m)の木トラスはスギ材で大工の工場で作られた。同じスギ材でも使い次第で強度の高い構造をつくる事が出来る。



0歳児室と遊戯室の屋根の上に載せられた太陽熱集熱パネル。OMソーラーと呼ばれる床暖房システムが採用されている。



構造体がそのまま現れた骨組みの遊戯室。出来上がると見えなくなってしまう部分だが、建物を支える重要な要素が詰まっている。



玄関内部の様子。障子付きの天窓が明るく、L型の式台は子供たちが一度にたくさん出入りするために考えた。出入口はガラスとし、内部から園庭がよく見える玄関とした。



屋根付きスロープのエントランスアプローチ。深い軒に守られ、雨の日の通園に便利。玄関と事務所窓は園庭向きにつくられ、保育者の目が届きやすいプランになっている。

園庭をぐるっと 囲むプラン

今回の設計の中で苦労したのが敷地と建物の関係性です。初めて敷地を訪れた時、敷地形状から少し難しい条件だと感じました。西側道路から細長い敷地があり、その先にまたまった広い敷地、そしてその向こうにまた細長い敷地があり、この敷地全てをどうやって利用していかうかと悩みました。周りは田んぼに囲まれ静かで開放的な敷地ですが、肝心の南側には住宅が立ち並んでいます。どの部屋も日当たりを良くして広い園庭も確保したい。また、送り迎えの駐車場や職員駐車場、調整池などの配置にも苦労しました。最終的には、それぞれの必要な広さやつながりを考えて全体をまとめ、西側の敷地を送迎用の駐車場、東側の敷地に職員の駐車場と調整池、広い中心の敷地に園庭を囲んだL型の園舎を計画しました。西側の門扉から玄関までのアプローチが長く確保出来たため、木レンガの通路や植栽スペース(写真は植栽前)、屋根付きのスロープをつくりました。園庭で遊んでいる子供たちを見ながらの訪問は楽しく、私もつい足を止めて子供たちの様子を見てしまいます。スロープの途中には事務所の中から園庭が見える横長窓もあり、どこからでも園庭が見渡せるプランとなりました。



右) 2歳児室と3歳児室をつないだ保育室。内容によって個別、合同の保育が行え、保育士の目も届きやすい。縁側テラスやデッキを使ってぐるっと回れて遊びも広がる。

左) 保育室天井には格子が組まれ、天井裏に設けた窓によって光や風が通る仕組みとなっている。



全保育室の北側に設けたウッドデッキ。直接外には出れないが、北側にあるため、夏は涼しく気持ちの良い場所。屋根付きで雨もしのげるので、いろいろな場面で使えて便利。



ロッカーと絵の引き出しを組み合わせた間仕切り収納。保育士さんからの希望をまとめ、サイズや使い勝手を考えて作成した。上部にはホーローのホワイトボードを取り付けた。



0歳児室専用の縁側テラス。ガラス戸で空間を区切り、明るく暖かな場所に加えて落ち着きのある空間とした。天井の天窓には遮熱のための障子を取り付けた。



敷地の一番落ち着く場所につくられた0歳児室。床と畳スペースが混在し、遊びやお昼寝に合わせて利用している。部屋には調乳コーナーが設けられ、浴室、トイレとも続いている。

- ※1 難燃材料…石膏ボードなどの燃えにくい材料
- ※2 天井は準不燃材料以上の仕上げとなる

心地良さと性能を兼ね備えた木の空間

突然ですが、みなさんの周りに「木の保育園や幼稚園」ってありますか？ 自分や子供が通った保育園や幼稚園が木で出来ていた！という人は、意外と少ないと思います。木は地震や火事に弱いと思われ、新しくつくる施設は鉄骨や鉄筋コンクリート造が当たり前と想っている人も多いと思います。また、設計者も木造の知識が少なく、木造が可能な規模や用途でも敬遠している方も多いと思います。しかし、全国的に木造の施設は増え、木の可能性について新しい技術も年々増えています。保育園に限った事では無いですが、建物は大きさや用途、また建設地によって様々な規制の中で安全に計画されています。構造別に耐震や防火の基準は厳しく決められ、どの構造でも不特定多数の人が安全に使う事の出来る設計基準になっています。今回の保育園は700㎡以下の平屋建てという事で木造建築の得意な規模、木の良さを最大限に表現できる建物です。ただ、室内の仕上げ材などには一定の基準があり、一般的に室内の壁(腰上)と、天井は難燃材料(※1)以上とされており、木材をそのまま使用する事が出来ませんが、基準以上の厚み、もしくは不燃材料の下地を貼った上に木材で仕上げする事が可能となります(※2)。これは、

研究者が火災実験を何度も重ね、火の回り方や特徴を調べ、安全に木材を使用する事が出来るひとつの方法です。私たち設計者としても選択肢が増え、今回の保育園でもこの仕様を採用し、保育室、遊戯室の壁にスギ板を使用しています。木の色や香り、手触りなどがよく、クロスなどに比べて耐久性があり、維持管理の上でも優れています。床板は特に規制がありませんが、耐久性を考えてヒノキ材を採用しました。ヒノキはスギに比べて強度が高く、摩耗や紫外線での劣化にも優れています。また、ヒノキは表面に光沢がありとても綺麗な板ですが、使うほどに味わいが増し、だんだんと落ち着いた色艶に変化していきます。

壁も床も無垢の木に包まれた保育室ですが、1歳児室と2歳児室、3歳児室と4歳児室が一つの大きな部屋になるのも特徴です。また、各保育室の前には幅2間(約3.6m)の広い縁側テラスと北側に屋外テラスを設け、季節や天気、遊び方に合わせて様々な利用ができます。縁側テラスでは各年齢の子供たちが交わりを持ち、お互いを意識しながら成長していく事も視野に入れ、保育と園舎が一体となったプランとしました。その他、各保育室には子供たちが描いた絵を収納する引き出しや掲示などに役立つホワイトボードも設けました。空間と素材を選び、保育理念と日常的な使い勝手が混在する特徴的な保育室になったと思います。



保育の目が子供たちを見守るプラン

日当たりの良い場所に保育室を一行に並べ、広い緑側テラスでつながりをもたせている。6間×6間の遊戯室からは山の緑が望め、ホールと5歳児室を取り込んで観客席にもできる。ホールから調理室が見えるように位置と高さを決め、裏の動線と分けてつながりを考慮した。事務室やホール、保育室から園庭が見え、どこからも保育士の目が行き届く配置を優先した。

手づくりだからできる 自由な発想や工夫

乳児から幼児、大人も利用する保育園は、様々な寸法や工夫で来ています。扉や家具など、既製品は色々ありますが、大きさや高さ、収納などを工夫して職人さんにつくってもらいました。



園庭からホール、事務所棟を見る。排煙窓や採光窓が外観のポイントをついている。外壁は木と漆喰。



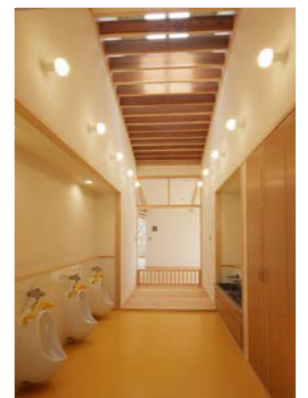
緑側テラスから園庭へ出入りするための踏み台。室内に光が入るようにと設けたガラス屋根。



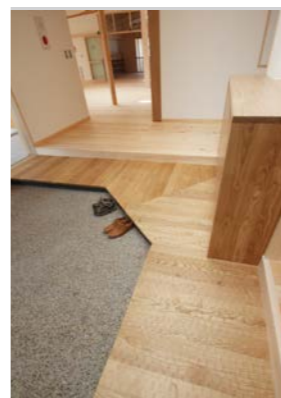
園庭がよく見えるホール。遊戯室の観客席になったりランチルームになったり。



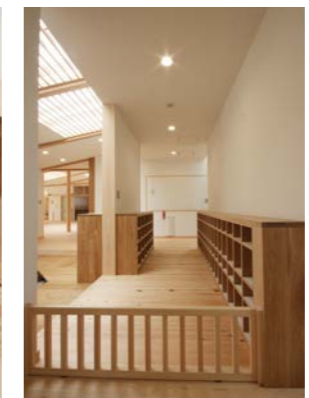
杉型枠でつくられた扉と杉板でつくられた門扉。大きな扉は園庭から出入りできる車両用出入口。



幼児用トイレ天井にも格子+天窓をつけて明るさと通風を確保した。



式台は足の裏で凹凸を感じられる名栗板でつくった。文字通り栗材。



玄関裏の靴箱、高さを変えて長靴が入るように工夫。



子供たちは水遊びが大好き、園庭には3か所の水場があり、水遊びや泥んこになった体を洗っている。

仕様内容

仕様内容		内部仕上	
定員	50人	天井仕上	石膏ボード12.5mm 下地、ビニールクロス貼り
敷地面積	2,687.92m ²	間仕切壁	木毛セメント板貼り 13mm
建築面積	777.18m ²	床	石膏ボード12.5mm貼下地、杉本実張り12mm
延床面積	685.66m ²	内部建具	ビニールクロス貼り
構造	在来工法平屋建て	厨房設備	構造用合板28mm 下地、桧本実板張り15mm
構造材	柱・梁：杉材・桧材 含水率20%以下(静岡県産材)	住宅設備	桧木製オリジナル建具
屋根	ガルバリウム鋼板縦ヒラ書き	設備	ホシザキ
軒天	木毛セメント板TSボード15mm		TOTO
外壁	杉Jパネル貼30mm	意匠設計	有限会社こころ木造建築研究所
外部建具	ガルバリウム鋼板貼、漆喰コテ押さえ仕上げ 杉本実板縦貼	構造設計	桜設計集団
	木製オリジナル建具 桧、ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)	設備設計	PLAN-Gエンジニアリング
		施工	株式会社杉村工務店
		木材供給(構造材・加工材・ルーバー材等)	株式会社杉村工務店
			大井川小径木加工事業協同組合
		木工事	株式会社佐野製材所
		竣工	平成30年3月

木の保育園は地域の財産

設計から建物完成までの約1年半。あっという間の期間でしたが、思い出せば色々な事が次から次へと…。でも様々な問題にたくさんの方が力を貸してくれ、諦めず、同じ方向に向かっていった事が良かったと思います。予算、工期、申請などたくさん不安の中で進んでいきましたが、最終的な力は、子供たちの笑顔や、園舎で元氣良く走り回る姿が見たいと強い思いでした。この園舎が完成し、私たち建築関係者にとってもとても大きな財産を残す事ができました。平成22年に施行された『公共建築物等木材利用推進法』の中、全国的に木材の可能性が様々な用途や技術の中で見直されています。新しい技術による耐震性能や防火性能の向上はもちろん、今まで感覚的に感じていた木の心地良さも、多くの研究者により少しずつメカニズムがわかってきていると聞きます。また、木材の利用は使う人だけではなく、環境面からもその地域に暮らすたくさんの人に影響を与えます。木は利点と共に多くの欠点があることも事実ですが、先人の知恵や伝統に学びつつ新しい技術も取り入れて、地域材を使った木の建築の良さをたくさんの人に知っていただく活動をしていきたいと思えます。この園舎で育った子供たちが大きくなり、自然環境や森について興味を持ってくれると嬉しいですね。